

自己評価票

(個別表)

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念をつくり、事業所入口に掲示している。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は理念を共有し、実践するように努めている。		
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入所時、地域の人々には運営推進委員会や小学校との交流時などに理解を求め、取り組んでいる。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣人が野菜を持ってきてくれたり小学生が遊びに来てくれたりと日常的な付き合いがある。積極的に挨拶するようにしている。		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	村の祭りや行事に参加したり、地元の小学生との交流を大切にしている。	○	地域の草刈りなどに参加し、地域住民と交流していきたい。
6		<input checked="" type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学生が安心して下校できるようにあいさつ隊を作り小学生達に挨拶をしている。		
地域とのつきあい 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価を理解し、評価を活かして改善に取り組んでいる。		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月から現在14度会議を持ち、サービスの報告や評価、これからの取り組みや、外部からの要望など幅広く意見を募りサービスの質の向上に活かしている。		
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として認知症セミナーを定期的に開催している。認知症に対する理解などを地域に発信している。		
10		<input checked="" type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在必要な利用者はいないが、いつでも支援できるよう資料にて勉強している。		
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する資料にて職員教育を行ない、いかなる時も虐待がないよう、細心の注意をはらっている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する時は常に説明会や個別の説明を行なうなどし、理解・納得を図っている。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞けるような雰囲気作りを心がけ、指摘や不満、苦情を伝えやすくしている。月に一度介護相談員が来ている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族の面会時に行なっている。2～3ヶ月に一度いりり庵便りを作り、配布している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内に苦情、不満を外部へ表せるよう連絡先を明記しており、家族に説明もしている。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回職員全員の会議を行ない、意見交換をしている。		
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に応じて勤務時間を変更したりして柔軟に対応できている。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今まで何度か職員の異動があったが、職員交流の為に法人内の職員交換であり馴染みの関係は保たれている。		
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や認知症セミナーを行っている。職員も積極的に参加できる環境を作っている。		
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北地域の他グループホームとの連絡会に参加し、職員の交換を行ない他のグループホームの良いところを積極的に吸収しようと心がけている。		
21		<input type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	診察に来る先生に分からない事や介護に行き詰った時に相談、助言をもらい仕事に生かしている。		
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員に担当の利用者や担当部署を作り日々新しいことに挑戦できるようにしている。		
人材の育成と支援 4項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に利用者から聞き取りを行ない、本人の求めていることを理解する努力をしている。さらに元々入所していた施設からの情報提供などもしている。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に家族から聞き取りを行なっている。その後のフォローアップとしていつでも相談にのれる体制を整えている。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時重要なことを見極め、対応出来る様に努力している。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めから入所決定などはせず、初めに試してもらい馴染む事で初めてサービスの開始としている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とドライブに出かけ村の中の道案内をしていただいたり、花や草の名前を教えていただいたりして勉強させてもらっている。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者との合同レクリエーションや祭りなどグループホームで利用者とともに過ごせる場所を提供している。		
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気楽にグループホームへ来れ、利用者が気楽に実家に帰れるよう、お互いに無理をしないよう、間に立った支援をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人の訪問が頻繁にあり、利用者が出掛けたいと言われたときに掛けられる支援をしている。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールの数箇所にソファを置き、利用者がお互いに関われるように雰囲気作りをしている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを持つ為、家族との電話連絡を不定期に行なっている。追弔会の案もあるが、家族の気持ちを刺激しない様努めている。		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に本人の意向に沿わない事はしないように努め、出来ない時はそのつど説明を行なっている。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握し、馴染みの暮らし方に近いように努めている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり総合的に現在の状況を把握できている。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族と話し合い、職員から見た必要なことを交え、意見やアイデアを入れて作成している。作成した計画は必ず家族に確認してもらっている。		
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行なっている。利用者に特変事項があった場合も職員、家族、本人で話し合い、作りなおしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が代わる代わる担当の利用者を決め、その職員を中心として新しい問題や気づき、それに対する工夫や解決策を職員間で話し合い、介護計画に生かしている		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係機関と連携し、関係施設で行なわれるイベントやサービスなどに本人が望むように参加できるようにしている。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					
Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に一度消防署の方に来てもらい防災訓練を行ったり、地域の小学校や駐在さんなどとの交流をしている。		
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホームと連携し合同レクリエーションをしたり地域の催し物に参加出来る様支援している。		
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからのチラシなど活用している。		
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の母体の医師でありこちらの希望や利用者の希望を聞いてくれている。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は認知症に詳しくいつでも相談にのってくれる体制が出来ている。		
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が一名常勤しており、休みの時も他の看護師が支援できる体制が取れている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	関連医療機関が車で1分の所にありもし入院しても短期での退院が可能で情報もすぐに入るようになっている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当グループホームは終身型をつたっており、現在までに5名の利用者の終末期をお世話させて頂いた。現在入所中の利用者、その家族にも説明してあり方針の共有をしている		
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えるにあたり、家族、医師、看護師、ケアスタッフでの相談、カンファレンスを行ない対応、準備をしている。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが起こった際、家族や関係者から十分に意見交換を行なっている。		
地域資源との協働 10項目中 10項目					
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を心がけている。個人情報の取り扱いにはシュレッダーを使うなどして配慮している。		
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日曜日の夕食は、いろいろ庵で作るようにしており、利用者に食べたい物を聞いたり、レク活動など何がしたいか聞くようにし、自己決定を促している。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家へ帰宅、買い物など利用者の希望により出来る限り希望に沿っている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれが出来る様本人と相談してその日の服装を決めている。理容・美容は本人が望む店に行ったり訪問理容を利用してもらっている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいといわれる物を出来る限り献立に反映している。味噌汁作りや片付けなど出来るだけ一緒に行なっている。	○	週に数回利用者と共にメニューを考え、食べたい物を出せるように努力している。
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	生もの以外、食中毒の危険のない物は好きなように本人が管理し、楽しんでいる。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを確認し、定時誘導もしくは一部介助行ない気持ちよく排泄していただいている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外、基本的に毎日入浴を楽しむ事ができる。時間の決まりもないが好んで午前中に入られている。		
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	何事も無理強いないようにし、本人の意思を尊重している。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 5項目					
		IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草むしりや家事、楽しみ事など、一人ひとりが気ままにできるよう支援している。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室での金銭管理はしていないが、それぞれの家族から預かったお小遣いを必要に応じて本人が使えるようにしている。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声掛けや本人の希望などで戸外に好きに出られるようにしている。	○	好きに出かけているが、危険防止のため一人で好きなどところに行く、というわけには行かない。
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	少なくとも年に一回は遠出をし、日々の暮らしに変化をつけられるようにしている。さらに個別で行きたいところへ出かけられるように支援している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける支援をしている。手紙のやり取りが出来る様支援している。		
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の知り合いが訪問してくれた時は気軽にまた来てくださいと声掛けを行なっている。		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 6項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口にポスターをはり、周知している。		
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間以外は原則かけていない。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、職員間の声掛けを密にし利用者全員の所在を把握している。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者と相談して、管理を任せてもらったり本人に管理してもらったりしている。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人として事故対策委員会を設置、参加している。ひやりハット報告書を作り、事故を未然に防ぐ取り組みをしている。		
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応時のマニュアルがあり、何かあったときはすぐに看護師や医師に支援を求められる。	○	定期的な訓練は行っていないが、看護師と相談し、何かあったときの対応は指導できている。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルがあり、運営推進会議にて地域の方の協力を仰いでいる。		
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの説明は医学的なことも含め、スタッフ、医師からそのつど連絡、説明するようにしている。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日血圧、体温を測定し、変化があればすぐに看護師、医師に相談している。特変事項あればそのつどカンファレンスを行なっている。		
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況、薬の種類、効果、副作用など、ファイルにまとめ、すぐに読めるようにしている。わからないことはすぐに医師と看護師に聞くようにしている。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を促したり、排便コントロールを行なったりしている。身体を動かす働きかけやその機会も提供している。		
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けと支援をしている。入れ歯のある方は、夕食後、入れ歯預かり、ポリドント洗浄している。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を使っている。水分は一人一人必要分を満たすようこまめにチェックしチェック表に記入している。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会があり、参加、実行している。感染には特に気を使って防止対策を行なっている		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々のハイター消毒、食材は古い物は使わないようにしている。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口が分かるよう看板をもうけ、入りやすい雰囲気を出すようにしている。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には植物や絵を飾ったり写真を飾ったり、照明を明るくしすぎないようにしたりして配慮している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、居間のソファ、畳の間など準備している。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってこられる方は少ないが、部屋の中に本人の喜ぶ飾りなどを飾ったりしている。家族にはなじみのものを持ってきて頂くよう、周知している。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレや居室、共有空間は常に換気し、共有部の温度調節は冬は22度、夏は28度を上限とし、居室は利用者のリクエストによって変えている。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、廊下広い為寒い時でも室内で運動が可能。		
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来るところは自分で行なえるよう、出来るだけ声掛けや見守りで支援している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	バルコニーで日向ぼっこが出来るように机とイスを置いている。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ○ ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ○ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ○ ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ○ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームいろり庵は、旧浅井町東幼稚園舎を改築しており周囲の自然環境に優れた場所に施設があり、地域の親しみの良さや、立地要件から地域住民、地元の小学生との交流がしやすく馴染みの関係が築けている。地域の方々に自由に入出入りして頂き、活気のあるにぎやかなグループホームを目指し運営推進会議を2ヶ月に一回開催し運営理念の理解や活動内容の報告を行ったり、地元の小学生が安全に登下校できるよう、利用者と職員と一緒に散歩に出かけ挨拶をする活動を行っており地域の方々、小学生との交流はとても深いものとなっている。又、利用者の健康面、医療面に関して、いろり庵には看護師が勤務しており利用者に特変が見られた場合、連絡をすればすぐに対応できる体制が整っている。母体である、あいち診療会リハビリテーションクリニックに担当の医師が在籍しており、連絡を入れてから5分かからず医師が来て充実した医療を受ける事ができ、利用者や御家族の不安を取り除けている。いろり庵では現在までに5名の利用者様の看取りを経験し、職員の生きた経験となっている。御家族に利用者のいろり庵での様子を知って頂ける様、面会時に利用者の現在の状態や活動された事など説明している、又、不定期ではあるが、いろり庵通信を発行し活動内容などを写真を載せて配布しており、離れた場所におられても利用者の様子が分かり少しでも安心して頂けるように心がけている。あいち診療会では2ヶ月に一回、認知症セミナーを地元の会場で開催し講演を重ねており、地域住民の認知症への理解を深めている。いろり庵は、湖北地域サービス事業者協議会に参加しており、他の事業所と協力し合同でレクリエーションを開催も行っている。いろり庵は、開所して5年目を向かえ、今まで様々な経験を利用者様と共にさせてもってきた。この後の5年間もこれまでの5年間以上により良いサービスを提供出来るよう努力していきたい。

評価結果整理表

個別表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
ー1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
ー2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	3 項目/3項目
ー3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
ー4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
ー5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	3 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
ー1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
ー2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
ー1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
ー2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
ー3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
ー4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV-1. その人らしい暮らしの支援		
ー1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
ー1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
ー1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
ー1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
ー1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
ー2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
ー2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総合評価

I 理念に基づく運営 (5項目/5項目)について

入口に運営理念を提示し、管理者と職員は理念を共有して実践している。利用者家族、地域で暮らす方々にグループホームの理念を伝え、理解して頂き、地域に開けた活動、支援が出来るよう日々努力している。運営推進会議にて活動の報告や地域の方にグループホームの活用をアピールし、より多くの人に訪問して頂けるよう努めている。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 (2項目/2項目)について

入所前に利用者、家族から聞き取りを行ない、この方が不安にされていること、困られていることを理解し、ニーズ解決に向け支援している。又、この方が生活されて来た環境、人間関係を無くすことなく継続していけるよう努めている。職員は本人を介護される一方の立場におかず、一緒に暮らし共に楽しめるよう活動しており、村のお祭りや他の事業所との合同レクリエーションなど様々な活動に参加し、他の利用者や家族、地域の方々との繋がり、関係を保てるよう支援している。

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント (4項目/4項目)について

利用者がその人らしい暮らしを送れる為、利用者、家族から話を聞き、ケアマネ、ケアスタッフ一丸となって介護計画を作成している。利用者一人一人に担当の職員がおり、一人一人に合った介護計画をケアマネと一緒に作成している。ケアマネからだけでなく、お互いに日々のケアの中で気になった点を話し合い追加している。又、利用者の状態が急に悪化した場合など、その都度カンファレンスを開き、状態に応じた介護計画を作成している。特変がない場合でも3か月に一度、介護計画の見直しを行ない、その人らしい暮らしが続けられている。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 (7項目/7項目)について

利用者の個性を尊重し自分で出来る事、やりたい事は極力、自分でやっていただいている。健康面、医療面は、関係施設が充実しており不安は解消されている。職員は、毎朝バイタル測定を行っており利用者の健康状態を把握している。特変見られる場合、看護婦へ連絡するとすぐに対応していただき、安心である。だが、年々利用者の重度化は顕著にみられるため終末期ケアの今まで以上の充足化が迫られている。今の職員のレベルや現状に満足せず、更なるレベルアップのため勉強会や研修を頻回に行ない、安心してその人らしく暮らせるよう支援していきたい。

V サービスの成果に関する項目について

開設してから4年が経過し、利用者、家族、職員はとても強い馴染みの関係となっており、利用者と職員の関係は祖父、祖母と孫のような気楽な関係性を築けている。このような関係性になるまでには、密なコミュニケーション日々のケアにより生まれた信頼関係ができ、心の底から安心して生活している証であると自負している。開設当初から利用されている方の老化による重度化が見られるのが現状だが、それぞれに見合ったケアを職員が日々努力している。

